

「会津地鶏」のデビーク省略と飼養密度による生産性の検討

福島県農業総合センター 畜産研究所養鶏分場

1 部門名

畜産－鶏－畜産環境生理

2 担当者

根本光輔・齋藤美緒・泉田和子・籠橋太史

3 要旨

会津地鶏を飼養する場合、動物愛護の精神や作業の省力化からデビークを実施しないことが多く、悪癖の発生により損耗率が増え、生産性を低下させている。悪癖発生には環境などからくるストレス等が関与していると言われていることから、飼養密度の違いによる生産性への影響を検討した。

- (1) 会津地鶏の雌でデビーク実施と未実施及び未実施の飼養密度を m^2 あたり7, 5, 3羽の区で17週齢までの体重、飼料摂取量、育成率、体表のキズの有無を調査した(表1)。
- (2) 17週齢時の体重は、デビーク実施の有無と飼養密度の違いによる有意な差は見られなかった(図1)。
- (3) 1羽あたりの飼料摂取量は、飼養密度の低い区ほど多くなっており、飼料要求率も m^2 羽数の多い1・2区が低く、羽数の少ない3区と4区が高かった。飼養密度の高い方が経済性に優れていた(表2)。
- (4) 育成率は、3区(m^2 あたり5羽)で尻つつきにより5羽が死亡したため83.3%であったが、他の区はすべて100%であった(表2)。
- (5) 体表のキズは、4区では認められなかったが、1～3区で悪癖によるキズが確認された(表2)。
- (6) 以上より飼養密度を低くしても、悪癖の発生する群としない群が見られ、悪癖発生群はキズの発生率が高く育成率や飼料利用性が低下した。また飼養密度が低くなるほど飼料要求率が高くなり、飼料経費が多くなることが確認された。

表1 区の構成

区	デビークの有無	m^2 羽数
1	あり	7羽
2	なし	7羽
3	なし	5羽
4	なし	3羽

表2 飼料消費量、飼料要求率、育成率、キズの発生率

区	1羽あたりの飼料消費量(kg)	飼料要求率	育成率(%)	体表キズ発生率(%)
1	9.04	3.7	100	2.4
2	8.75	3.5	100	9.5
3	10.15	4.2	83.3	8
4	10.37	4.2	100	0

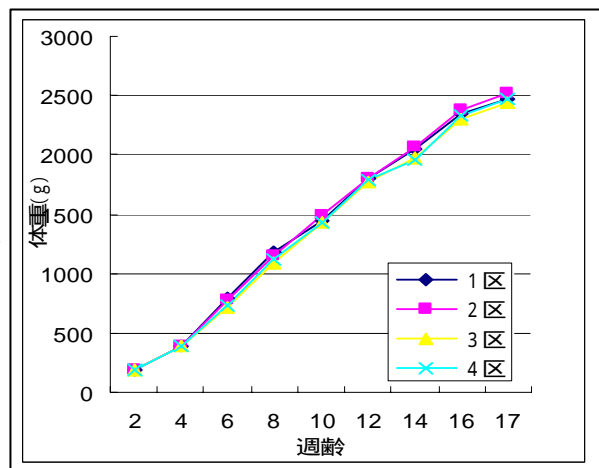


図1 体重の推移

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成18～20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2006～2008)
- (2) 福島県養鶏試験場研究報告18号～20号